

琉球大学学術リポジトリ

現代中国語における形容詞述語文

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2007-11-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, さとみ, Ito, Satomi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2401

現代中国語における形容詞述語文 On Adjectival constructions in Mandarin Chinese

伊藤 さとみ
ITO, Satomi

汉语形容词在表示比较级时单独作谓语，但在表示绝对级时要加上程度副词。不少语言学家从这个语言现象的观点，主张汉语形容词本身就包含有“比较”的意义。本文以此为基础，尝试透过分析一些语言现象，来归纳出形容词谓语句的结构，并就汉语形容词所具有的“比较”意义的来源来进行讨论。本文有两个主要论点：一、“程度副词+形容词”的结构属于述宾结构；二、形容词可以移动到程度句或者动词句，并且形容词的级次是透过移位的过程来决定的。

1. はじめに
2. 統語論 2.1 絶対級構文の構造 2.2 比較級構文
2.3 実量を表す数量表現 2.4 差を表す数量表現
2.5 見かけの反例
3. 意味論 3.1 形容詞の表す意味と移動の動機 3.2 否定に見る意味論
3.3 数量表現の意味の違い
4. 「更」について
5. 分析の帰結 5.1 命令文 5.2 基準不合致意 5.3 状態形容詞
6. まとめ

1. はじめに

中国語の形容詞には、大きく分けて性質形容詞と状態形容詞の二種類がある。本稿では、性質形容詞が述語をなす場合を取り上げ、¹⁾その述語部分の構造と形容詞の意味を明らかにする。

龙果夫 1958,147、丁等 1961,22-3、刘等2002,196-7等の指摘にあるように、

性質形容詞が単独で述語になるときは、比較の意味を必ず含む。そこで、もし主語の持つ性質を単に叙述するのであれば、程度副詞をつけるなどの操作を行い、比較の意味を消さないといけない。本稿では、この現象を出発点に、形容詞述語文の構造、及び形容詞が持つ「比較」の意味を明らかにする。まず、形容詞述語文が比較の意味を表すとき（比較級構文）と、そうでないとき（絶対級構文）に見られる文法的・意味的振る舞いの違いを観察し、形容詞述語文の構造を定める。次に、「比較」の意味とそれが形容詞の振る舞いに与える影響について論じ、最後に命令文や補語となるときの振る舞いについても、有効な説明を与えることを示す。

まず、ここで絶対級構文／比較級構文とは何かを述べておく。中国語は形態変化的に乏しく、形容詞も形態的な絶対級／比較級の違いを持たない。しかし、李1996,35が述べたように、級というのは、次元（例えば、高さ、速さなどの比較する観点）上の等級序列であり、この等級序列を言語上に反映する方法として、どの言語もいくつかの手段を持っている。英語では、「-er,-est」という文法手段があるが、中国語にもそれと対応する違いが存在する。

(1) a. Zhangsan is tall.

b. 张三很高。（張三是背が高い。）

(2) a. Zhangsan is taller than Lisi.

b. 张三比李四高。（張三是李四より背が高い。）

英語の絶対級構文／比較級構文それぞれに対応する中国語の例文は、副詞がつかどうかにおいて異なっている。英語の絶対級構文には、程度副詞を伴う形容詞句が対応し、比較級構文には裸の形容詞が対応している。以下、本稿では、絶対級／比較級という語を形態でなく、意味的に定義して用いる。即ち、主語の表す個体の持つ性質を述べている場合を絶対級構文と呼び、主語の表す

¹¹ 性質形容詞のもう一つの主要な文法的働きは、名詞を修飾する（定語になる）ことであるが、本稿ではこの用法は取り上げない。なお、性質形容詞は、状語や補語として動詞を修飾することもある（房1992, 73-75、刘等2002, 195-199）。状語になれる形容詞には制限があり、この場合は特別に副詞性成分に変化していると考えられる。一方、補語となる場合は、述語の一部を形成しており、本稿で扱うべき範囲である。この補語となる場合については、最後の節で触れる。

個体の持つ性質の程度を、他の個体の持つ程度と比較している場合を比較級構文と呼ぶ。

2. 統語論

中国語においては、形容詞は動詞と同じように単独で述語をなすことができる。そこで、形容詞という品詞を特に立てるべきかどうかについては論争があった。動詞を形容詞と区別する代表的な方法には、程度副詞を伴うかどうか、名詞目的語を伴うかどうか、また重ね型のとる形式の違いなどがこれまでに提案されている。

	程度副詞	目的語	重ね型（アクセントの位置、形式）
動詞	*很吃	吃饭	吃→‘吃吃 同意→同意同意
形容詞	很高	*高房子	高→高‘高 干净→干干净净

しかし、上記の方法すべてが一致して同じ分類をするわけではない。例えば、「喜欢」、「同意」のような心理状態を表す動詞は、動詞として目的語を伴う以外に、程度副詞も伴うことができる。一方、「雪白」、「漆黑」のような状態形容詞は形容詞に分類されるにもかかわらず、程度副詞を伴うことができない。重ね型についても、感情を表す動詞は重ね型にできない、状態形容詞は動詞と同じタイプの重ね型をつくるなどの問題がある。²⁾本稿では、動詞／形容詞の従来の分類に必ずしもこだわらず、程度副詞を伴うことができ、かつ、比較文の述語になれる語を広義の「形容詞」とみなし、分析を進める。この点において、本稿の扱う範囲は、形容詞という一品詞ではなく、程度性をもつ語の研究とすることができる。以下、形容詞という語を、この広義の意味で用いる。

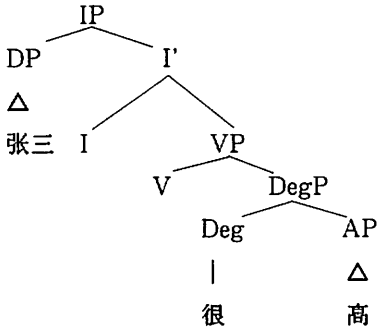
2.1 絶対級構文の構造

1節で述べたように、中国語の絶対級構文は程度副詞を伴った形容詞からな

²⁾ 動詞と形容詞の類似点と相違点については、Chao 1968,331-336、張1958,39-44、朱1982,55-57参照。

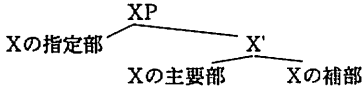
る。この種の形容詞述語文の構造は、従来、程度副詞が修飾語（状語）、それに続く形容詞が被修飾語（中心語）であると分析されてきた。これに対し、本稿では、程度副詞と形容詞の関係を、ちょうど助動詞と動詞の関係のように捉える分析、即ち、一種の動目構造（述賓結構）とする分析を採用する。程度副詞は、「很」の一部の用法を除けば、たいていは形容詞を後に伴い、それ自身の独立性が弱い。この点において程度副詞は助動詞と性質が似ている。また、ちょうど助動詞が動詞に願望や可能の意味を付加するように、程度副詞は形容詞に絶対級／比較級の意味を付加するといえる点でも平行しており、両者とも述語性目的語をとる動目構造であるとみなすことができる。³¹

(3) 张三很高。(張三は背が高い。)



上の図において、IP は屈折句、VP は動詞句を表し、屈折句の補部として動詞句がある。DP は定の名詞句を表し、主語の「张三」は IP 指定部の位置に現れる。ここまでは、動詞述語文と同じである。形容詞述語文が異なるのは、

³¹ 以下の構造は Kennedy 1999,109-110による。なお、ツリーの中の位置は、それぞれXP (X句、例えば名詞句、形容詞句など) について次のように呼ばれる。



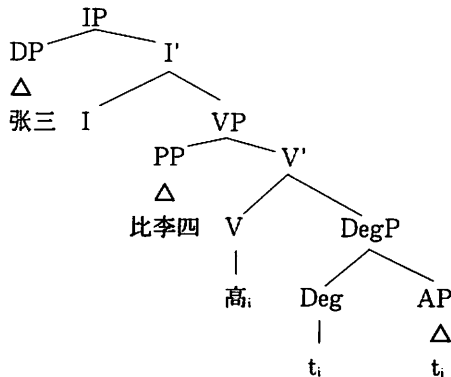
本文中のツリーは紙幅の関係で、この構造の一部を省略していることがある。

動詞 (V) がその補部として程度句 (DegP) をとり、さらに程度句の補部として形容詞句 (AP) を持つ点である。この程度句主要部の位置 (Deg) には、形容詞の程度がどのくらいであることを示す程度副詞が現れる。ここに「很」「非常」「挺」「十分」などが現れると、絶対級であることを表す。⁴⁾ なお、上述の構造において、もう一つ伝統的な分析と異なるところは、形容詞述語文であるにも関わらず、動詞句が現れている点である。中国語の形容詞述語文は、be 動詞などの補助を必要としないため、一見この設定は無駄のように見える。しかし、ここでわざわざ動詞句を設定するのは、この動詞主要部への形容詞の移動により、絶対級構文と比較級構文の違いを説明することができる点にある。詳しくは、次節で述べる。⁵⁾

2.2 比較級構文

次に、比較級構文の構造を見てみよう。比較級が絶対級と異なる点は、比較級構文では、程度副詞が現れないことと、比較の対象を表す句（以下、「比」句と呼ぶ）を伴うということである。

(4) 张三比李四高。(張三は李四より背が高い。)



⁴⁾ 「很」が中立的な意味の絶対級構文を構成することに注目し、允果夫1958,1993は「很」はコピュラ動詞に変化しつつあると述べた。だが、実際には、「很」が現れるのは、形容詞や心理状態を表す動詞などに限られているため、コピュラ動詞とは言いがたい。本稿の採用する構造では、「很」をコピュラ動詞であるとしなくても、中立的意味の絶対級構文に「很」が必ず現れるのは、絶対級化の要求であると説明することができる。

「比」句は介詞句の一種であるので、他の介詞句に準じて、動詞を修飾する位置、つまり動詞句内に付加される。⁶¹ 一方、程度句が絶対級構文と同じように存在するのに、程度副詞が現れてはいけない点はどのように説明できるだろうか。これは、3.1で詳しく見るが、性質形容詞が比較の意味を含んでいるためである。比較には、2つのものが必要である。一つは主語のあらゆる個体であることは当然だが、もう一つの個体（以下、比較の対象と呼ぶ）が与えられる必要がある。動詞句内にある「比」句は比較の対象を導入する働きをしており、形容詞は、この比較の対象を探して動詞句内にまで移動するのである。この移動を今、A-to-V 移動と呼んでおこう。この移動は、主要部移動と呼ばれる主要部から主要部への移動の一種として、以下の制約に従う。

- (5) 主要部移動：各句の中心となる要素（主要部）が、他の句の中心となる要素が占める位置（主要部）に自由に移動する現象を指す。
- (6) 主要部移動にかかる制約：移動の条件としては、移動先が空いているか、移動先の要素と文法的に結合することができなければならない。

比較文の場合、程度主要部の位置が空であれば、形容詞「高」は、ここを通過して、動詞主要部まで登ることができる。もし、程度句主要部の位置に要素があると、形容詞が動詞主要部へ移動をすることができなくなり、比較の対象を得られない。形容詞の意味は、比較の対象なしには不完全であるので、次の例文のように容認されなくなる。

- (7) *张三比李四很高。

⁶¹ なお、時1999に詳しいが、程度副詞は一方が「有点儿」、「有些」、「稍微」のとき、二つ重ねて用いられることがある。このとき、二つの副詞の位置関係が問題になるが、前の副詞は直接形容詞を修飾しているのではなく、後の副詞を修飾しているとみなされる。つまり、程度指定部の位置に程度副詞が程度副詞を修飾する構造が現れているのである。

她 [DegP [DegP 很] 有点儿 [AP 害怕]]。(彼女はかなりちよっと怖くなった。)

身材 [DegP [DegP 有点儿] 太 [AP 胖]]。(体が少し太りすぎだ。)

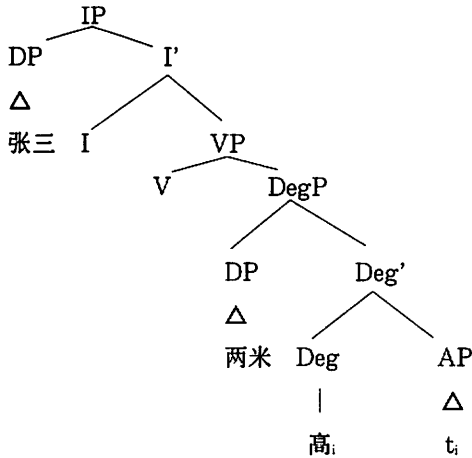
我 [DegP [DegP 稍微] 有点儿 [AP 明白了]]。(私は少しちよっと分かってきた。)

⁶² Kennedy 1999では、この介詞句は程度句に付加されている。程度句に付加された場合も、動詞句に付加されている場合も、語類は同じになる。ここでは、「比」句を他の介詞構造と同じと考えたため、動詞句に付加している。

2.3 実量を表す数量表現

実量を表す数量表現とは、形容詞述語文に現れて、その形容詞の程度を表す表現のことを指す。こういった数量表現は、形容詞の程度を具体的に示す働きをすることから、程度句指定部の位置にあるとみなすことができる。

(8) 张三两米高。（张三は2 mの身長がある。）



程度主要部の位置が空いているので、形容詞は、ここに移動することが可能である。これを A-to-Deg 移動と呼ぶ。形容詞は A-to-Deg 移動を通して、数量表現と同じ句内に移動し、数量表現を形容詞の意味の中に取り込む。この移動をすることができなければ、数量表現の意味を形容詞と関連付けることができず、文は容認されない。実際、数量表現がある場合に、程度句主要部に程度副詞が現れることはできない。

(9) *张三两米很高。

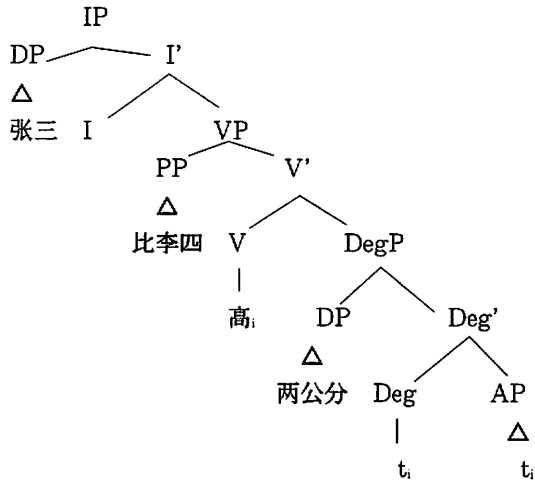
なお、数量表現と形容詞の関連付けの概念については、3.3で見る。

2.4 差を表す数量表現

差を表す数量表現とは、主語の持つ性質の程度と、比較の対象の持つ性質の

程度の間の差がどれくらいあるかを示す表現である。この数量表現は、前節で述べた実量を表す数量表現とは異なり、裸の形容詞の後に現れる。だが、2.2の比較級構文の分析を用いるならば、ともに本来は同じ位置にあるとみなすことができる。

(10) 张三比李四高两公分。(張三は李四より2 cm高い。)



上の構造で、動詞句内にある「比」句を比較の対象としてとるために、形容詞は A-to-V 移動を起こす。その結果として、表層では、数量表現が形容詞の後に現れることになる。実際、程度句主要部に程度副詞が現れると、非文となるが、これは形容詞が移動できなくなり、数量表現を形容詞と関連付けることができなくなるからである。

(11) *张三比李四两公分很高。

一方、形容詞が A-to-Deg 移動のみを起こし、数量表現と関連付けられることができた場合も、文は容認されない。これは、形容詞が「比」句を比較の対象としてとることができないからである。

(12) *张三比李四两公分高。

このように、2.1、2.2で提案した絶対級／比較級構文の違いを踏まえると、

同じ数量表現が、絶対級構文と比較級構文では、見かけ上、異なる位置を占めるのはなぜかを説明することができる。

2.5 見かけの反例

数量表現の位置と形容詞の移動について、一見反例に見えるケースがある。張1958、82には、実量を表す数量表現は、3種類の構文をとりうると述べている。

- (13) a. 这根柱子一丈五尺高。(この柱は、一丈五尺の高さがある。)
- b. 这根柱子高一丈五尺。(この柱は、一丈五尺の高さがある。)
- c. 这根柱子一丈五(尺)。(この柱は、一丈五尺である。)
- (14) a. 小李120磅重。(李君は120ポンドの体重がある。)
- b. 小李重120磅。(李君は120ポンドの体重がある。)
- c. 小李120磅。(李君は120ポンドである。)

張1958、82は、aの例が最も普通であり、cの例については、一定の文脈のもとでのみ用いることができると述べている。bの例については、aほど自然ではないものの、容認可と認識されているようである。同様に、Xiang 2003も、A-to-V 移動は、比較級構文では義務的だが、絶対級構文では任意であり、数量表現と絶対級形容詞の位置には二種類ありうると主張している。

しかし、実量を表す数量表現を伴う文において、A-to-V 移動が本当にあるのかどうかは疑問である。この例文は、むしろ、主要部移動ではなく、主題化の一種とみなすのが適切であると思われる。(15)の例において「身高」は「身長」という名詞であり、この構文は二重主語構文の一種である。この例と平行するように分析するならば、(16)の例も二重主語構文として扱うべきである。

(15) [NP₁ 张三][NP₂ 身高][VP 两米]。(張三は身長が2 mある。)

(16) [NP₁ 张三][NP₂ 高][VP 两米]。(張三は背の高さが2 mある。)

主題化されるものは、構成素をなすものであれば、ほとんどが可能である。この場合には、形容詞句が名詞化及び主題化されて数量表現の前に現れているのである。

以上、この節の議論は次のようにまとめることができる。

(17) 形容詞の移動と級の関係

- a 形容詞が A-to-Deg 移動を起こすと、絶対級になる。
- b 形容詞が A-to-V 移動を起こすと、比較級になる。

(18) 形容詞の移動と数量表現の関係

- a 形容詞が A-to-Deg 移動を起こすと、共起した数量表現は実量を表す。
- b 形容詞が A-to-V 移動を起こすと、共起した数量表現は差を表す。

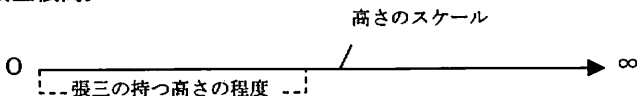
3. 意味論

2 節では、絶対級と比較級それぞれの形容詞述語文の構造を論じ、表面上の語順が正しく導かれることを見た。しかし、なぜ移動が起きるのか、また、数量表現の意味が変わるのはなぜか、という点については、構造だけの説明では不十分である。この節では、形容詞と形容詞述語文の意味を定義し、この2つの問題に答えを与える。

3.1 形容詞の表す意味と移動の動機

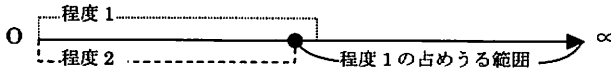
形容詞の表す意味は何か、という、ある個体の一時的または長期的に有する性質である、というのが一般的な見方であろう。しかし、比較級構文を視野に入れると、この定義は十分ではない。比較級構文においては、主語の持つ性質と比較の対象のもつ性質とが比較されているのではなく、それぞれの持つ性質の程度が比較されている。つまり、比較級構文は程度間の比較として定義されなければならない。それに伴って、形容詞の意味も、単に性質だけではなく、性質と程度の両方を表すものと考える必要が生じる。性質と程度の両方を兼ね備えた形容詞のイメージは、スケールを用いることで表すことができよう。例えば、「高」であれば、それは高さを表すスケールであり、形容詞述語文を構成したときは、このスケール上のあるインターバルを表している。

(19) 张三很高。



形容詞をスケール上のインターバルとして定義すると、形容詞述語の意味を、以下のように表すことができる。すなわち、主語がその形容詞スケール上で持つ程度1と、比較の対象の持つ程度2間の大小関係である。

(20) 絶対級 程度1 \geq 程度2



(21) 比較級 程度1 $>$ 程度2



形容詞絶対級が述語であれば、程度1が程度2と同じかまたはそれより大きいことを表す。形容詞比較級が述語であれば、程度1が程度2より大きいことを表す。インターバルの図で考えるならば、程度1と程度2の長さを比較しているとみなすことができる。図に黒点の有無で示したが、絶対級と比較級では、程度1の占める範囲に違いがある。絶対級の場合は、程度2と同じことがありえるが、比較級のときにはない。それぞれの具体例は以下のようである。

(22) 张三很高。

张三の背の高さ \geq 標準的中国人男性の背の高さ

(23) 张三比李四高。

张三の背の高さ $>$ 李四の背の高さ

具体例から分かるように、絶対級と比較級には、もう一つ大きな違いがある。それは、程度2、即ち比較の対象となる程度の与えられ方である。絶対級構文では、比較の対象は文脈から与えられる。文脈から与えられる比較の対象は、文脈に応じて異なる程度を表しうるので、例えば、上の文が中国北方で発言された場合と、南方で発言された場合とでは、比較の対象となる程度（標準的男性の背の高さ）は異なっているだろう。一方、比較級構文では、比較の対象は、基本的に「比」句で与えられる。

ここで、「比較級」であることと、形容詞が「比較」の意味を持つということの違いについて述べておこう。形容詞が「比較」の意味を持つとは、絶対級／比較級に関わらず、2つのものをある属性について比べているという意味で

ある。一方、「比較級」であるということは、この比べられているものの関係に等しい場合がない（＜または＞）ということである。従って、形容詞は絶対級であろうと比較級であろうと比較の意味を持つ。ただし、絶対級構文では、比較の対象を表す文法的手段がなく、たいていは文脈から補われるため、比較であることが分かりにくいだけである。2.2では、形容詞は比較の意味を含んでいるために「比」句のある動詞句内へ移動すると述べたが、この移動の動機は形容詞の持つ比較の意味を完成させるためであるので、絶対級でも起こりうる。それが2.3で述べた、A-to-Deg 移動、数量表現のある程度句内への移動である。ここで一つ問題になるのは、「比」句と数量表現が同時に文中に現れているような場合である。程度句内に数量表現があるため、移動は程度句主要部で終わってもよいように見える。だが、(12)の例が容認されないことから分かるように、形容詞は必ず動詞句主要部の位置まで移動しなければならない。これは、「比」句の導入する比較の対象が必ず形容詞の持つ意味に組み込まれなければならないという理由による。

3.2 否定に見る意味論

前節では、形容詞絶対級と比較級の意味論を論じたが、この意味論を支持するものに、中国語の形容詞の否定がある。

(24) 张三不高。

～ [张三の背の高さ \geq 標準的中国人男性の背の高さ]

→ 张三の背の高さ $<$ 標準的中国人男性の背の高さ

(25) 张三不比李四高。

～ [张三の背の高さ $>$ 李四の背の高さ]

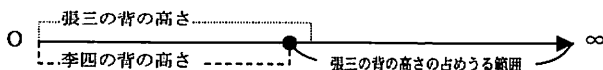
→ 张三の背の高さ \leq 李四の背の高さ

「 \geq 」の否定は等号を含まない「 $<$ 」であり、「 $>$ 」の否定は等号を含んだ「 \leq 」である。従って、3.1でそれぞれについて述べた意味論は否定にも適用できることが分かる。

なお、一般には、「比」の代わりに「没有」を用いる構文が比較級構文の否定に対応すると言われている。これは、「没有」を用いる構文が、比較級構文

と同じく、等号を含まない大小関係を表しているために生じた誤解である。まず、肯定形の「有」の意味から見てみよう。呂1980,559、吉田・林 2001,34-40が述べているように、この種の「有」は形容詞のスケール上で、ある程度にまで達しているという意味を表す。これは、比較の対象の持つ程度と同じか、それ以上という意味であるので、 \geq で表される関係である。

(26) 张三有李四那么高。 张三の背の高さ \geq 李四の背の高さ



この否定形である「没有」が等号を含まない $<$ であることは自然に導かれる。

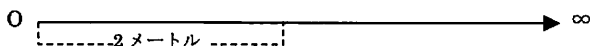
(27) 张三没有李四高。 张三の背の高さ $<$ 李四の背の高さ

3.3 数量表現の意味の違い

形容詞述語文に現れる数量表現の意味には、実量を表す場合と、差を表す場合の二つの場合がある。2.3と2.4では、どちらの場合も、形容詞が数量表現を取り込むという表現で表したが、実際の意味の違いはどのようにして生じるのだろうか。

3.1で述べたように、形容詞の意味は、スケール上のインターバルとして表すことができる。そこで、形容詞が数量表現を取り込むとは、このインターバルの長さについて具体的な指定を受けると考えることができる。形容詞の移動と関連させて言うと、A-to-Deg 移動を行った時点で、(28)aのようにインターバルは2メートルだという指定を受け、次に主語と結びついて(28)bようになる。

(28) a 两米高。(A-to-Deg)



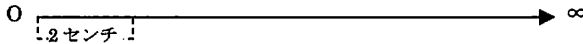
b 张三两米高。



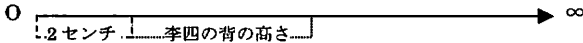
比較級構文の場合は、事情がより複雑である。なぜなら、比較級構文には、

A-to-V 移動が起こっているが、ここには、2つの移動、即ち A-to-Deg 移動と Deg-to-V 移動が含まれているからである。まず、形容詞が程度句主要部へ移動した時、絶対級構文と同じように、インターバルの長さの指定を受ける(29a)。次に、動詞句主要部へ移動したとき、「比」句の表す比較の対象の持つ程度がそこに上積みされる(29b)。最後に、主語をとって文は完成する(29c)。

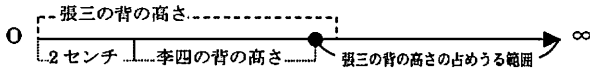
(29) a 两公分高。(A-to-Deg)



b 比李四高两公分。(Deg-to-V)



c 张三比李四高两公分。



ただし、この分析には本稿の提案する意味論の予測どおりでない点がある。それは、実際の意味としては、どちらも絶対級の意味論を使っていることである。まず、数量表現が実量を表す場合には問題はない。形容詞は移動の面から見ても、意味的に見ても絶対級である。従って、下の例では、张三の背の高さは、2m ちょうどか、それを少し超えていてもよい(吉田・林2001,35)。

(30) 张三两米高。张三の背の高さ ≥ 2 m

一方、数量表現が差を表す場合、移動の面から見ると形容詞は比較級になるが、実際の意味は絶対級である。下の例で言うと、张三の背の高さは、李四の背の高さに2cm足したのか、それを少し超えていてもよい。

(31) 张三比李四高两公分。 张三の背の高さ \geq 李四の背の高さ + 2 cm

この問題については、まだ確定的な結論ではないが、比較級が比較する対象は、あくまで主語と「比」句の導入する対象であり、形容詞が動詞句内にある段階では数量表現の底上げが無視されるようである。比較級の意味を見るときには、(32a)だが実際の意味は(32b)なのである。

- (32) a 张三の背の高さ > 李四の背の高さ
 b 张三の背の高さ \geq 李四の背の高さ + 2 cm

4. 「更」について

従来、程度副詞に分類される要素の中には、比較級を作るように見えるものもある。例えば、「更」という副詞は、以下のように「比」句と共起し、二つのもの間の比較を行っているように見える。

- (33) 侮辱比死亡更可怕。(侮辱は死ぬことよりさらに恐ろしい。)

だが、「更」は以下の点で他の程度副詞と異なっている。

1. 「更+形容詞」が「比」句と共起するとき、「比」句の導入する比較の対象が、形容詞の表す属性をすでに持っていることを前提としている。これは、比較級構文ではなく、絶対級構文の持つ特性である。(33)の例であれば、死ぬこと自体がおそろしいという前提があり、侮辱はそれをさらに超えるということを表している。
2. 「更」が数量表現を伴うとき、数量表現は形容詞に後続する位置に現れる。この位置に数量表現が表れるということは、形容詞が移動を起こしたことを示している。

- (34) 这次比上次更少了一票。(今回は、前回よりさらに一票少なかった。)

「更」がその移動した形容詞より前に現れているということは、「更」は動詞句またはそれより上の階層にあることを示している。

3. 「越」を用いて「AすればするほどBだ」という意味を表すとき、「更」を伴った形容詞を用いることができない。

- (35) a 越快, 越好。(早ければ早いほどよい。)

b *越更快, 越更好。

「AすればするほどBだ」という構文は、あるものまたは状況の持つAの程度と、Bの程度を比較し、両者が比例して増加することを表している。この意味において、この構文に現れる形容詞は比較級である。だが、「更」を伴った形容詞を用いることはできない。

以上の3点から、「更」は、他の程度副詞とは異なると考えられる。以下の

例に見られるように、この副詞は、形容詞を修飾するのではなく、動詞を修飾するようである。

(36) 因此更加速这些语言文化的流失。(よってこれら言語文化の流失がさらに加速する。)

(37) 对金额大的订货, 我们更要求开信用状了。(金額の大きい注文には、なおさら信用状をお願いしています。)

(38) 每两年举办一次本国陶艺展, 1992年12月更举办了国际陶艺邀请展。(隔年に一度国内陶芸展を開き、1992年12月にはさらに国際陶芸招聘展を開いた。)

上のいずれの「更」も動詞を修飾しており、「很」など他の程度副詞で置き換えることはできない。例文の意味から分かるように、「更」は形容詞の級を決めるのではなく、別の個体や別の事情の存在を暗示し、それに加えてどのような状況か、ということを示す働きをするのである。

5. 分析の帰結

以上、中国語の性質形容詞が述語をなす場合について、絶対級、比較級のそれぞれの構造と意味を見てきた。ここでは、本稿で提案する分析が、形容詞の見せるほかの振る舞いも説明しうることを見る。

5.1 命令文

荒川1979、袁1993、王1999などで論じられたように、中国語の形容詞は単独で命令文を作らない。命令文を構成する方法には、いくつかあるが、その一つに、形容詞の後に数量表現(「一点儿」「一些」)を付加するという手段がある。この数量表現の役割については、形容詞を動的化させるもの(荒川1979,44)、比較を表す参照点マーカ―を表すもの(王1999,84)、現在の状態に比べた未来の状態についてこうなるはず、こうなるべきだということを言うためのもの(宮下 2000,45)といった説明がある。いずれの研究も、形容詞命令文を何らかの形で比較と関連付けているが、命令文は、現在の状態と、話者が理想とする未来の状態との比較を前提としているという点において、これら形容詞は比較級だということができる。そして、このことは数量表現の位置とよく合致す

る。

(35) a 快点儿! (はやくしてください。)

b *一点儿快!

2節で述べたように、形容詞が比較級化するには、A-to-V 移動が必要である。この移動の結果として、数量表現は形容詞の後に現れるようになる。つまり、数量表現の前にある形容詞は比較級である。一方、形容詞が命令文をなすときに数量表現を伴うのは、この移動が行われたことを明示的に示すためであるといえる。⁷⁾

5.2 基準不合致意

黄2001の指摘にあるが、次の二つの文は「～過ぎる」という意味（基準不合致意）と、動作の結果としてその補語をなす形容詞の表す状態が達成されたことを表す意味（基準達成意）の両方の意味を表すことができる。

(40) 绳子拉紧了。(縄を強く引っ張りすぎた／縄を強く引っ張った。)

(41) 坑挖深了。(穴は深く掘りすぎた／穴を深く掘った。)

本稿の分析を応用すると、A-to-V 移動を経て、動詞と形容詞の結合が統語的に作られた場合は、形容詞は比較級であり、基準不合致意になるが、この結合が語彙的に作られて、もともと動詞の位置にある場合は、基準達成意になると説明することができる。どの形容詞がいつ基準不合致意を表すことができるかについては、語彙、文構造、文脈など多岐にわたる要素を整理しなければならないが、この現象がなぜ起こるかに対して、一つの説明の可能性を開くことができる。

5.3 状態形容詞

石1991、朱1956では、中国語の形容詞の区別が論じられ、量の概念を含まな

⁷⁾ 数量表現には、主にあいまいな量を表す「一点儿」「一些」が用いられるが、実数も現れることができる。ただし、この場合、「再」を伴う必要がある。この副詞の役割については、更なる検討が必要であろう。

再高两公分! (もう2センチ高くしてください。)

*再两公分高!

い性質形容詞と、量を含む状態形容詞という分類が提案されている。本稿では、性質形容詞のみを対象にしたが、提案した構造は状態形容詞にも適用することができる。その場合、程度句主要部の位置に、形容詞の量を表す要素（「雪白」の「雪」）や重ね方を誘発するような操作子が存在すると考えることができる。ただし、程度副詞と全く同じ範疇であるとはいえないため、これらの要素がどのように形容詞の意味を限定するのかについては、今後の課題としたい。

6. まとめ

以上、中国語の性質形容詞が述語をなす場合を取り上げ、その絶対級／比較級の構造及び意味について考察した。構造については、まず、程度副詞＋形容詞の構造を動目構造の一種とみなす分析を提案し、この構造に主要部が加わると、形容詞の級と数量表現の位置との関連をよく説明することを見た。また、形容詞述語文を性質（スケール）上の程度（インターバル）の比較とみなすことにより、主要部移動の動機、及び数量表現の意味の変化を捉えることができることを述べた。最後に、形容詞述語文に対して提案された本稿の分析は、命令文や補語となるとき形容詞の振る舞いを説明することができ、状態形容詞の分析にも道を開くものであることを示した。

<参考文献>

- 荒川清秀 1979 「中国語における形容詞の命令文」。『中国語学』 第226号、33-47頁。
- 丁声树等 1961 『現代汉语语法讲话』。北京:商务印书馆。
- 房玉清1992 『实用汉语语法』。北京:北京语言文化大学出版社。
- Kennedy 1999 *Projecting the Adjective* New York:Garland Publishing
- 黄利惠子2001 「現代中国語における形容詞補語構文の多義性」『言語文化論』 第1号、37-48頁。
- 李宇明1996 「论形容词的级次」。『语法研究和探索8』。北京:商务印书馆。
- 刘月华・潘文娛・故粹 2002 『实用现代汉语语法』(增订本)。北京:商务印书馆。

- 龙果夫, A. A. 1958 『现代汉语语法研究』。北京:科学出版社。
- 吕叔湘主编 1980 『现代汉语八百词』。北京:商务印书馆。
- 宫下尚子 2000 「“快点儿走”と“走快点儿”」。『比較社会文化研究』 第7号、39-46頁。
- 齐沪扬·王爱红 2001 「形容词性短语与形容词的功能比较」。『汉语学习』 第2号、1-9
- 时卫国1999 「論程度副詞連用」。『中国語学』 第246号、40-46頁。
- 石毓智 1991 「现代汉语的肯定性形容词」。『中国语文』 第3期、167-174頁。
- 石毓智 1992 『肯定和否定的對稱與不對稱』。台北:學生書局。
- 王志英 1999 「中国語の「形容詞の命令文」と「一点儿」について」。『中国語学』 第246号、79-88頁。
- Xiang 2003 Phrasal comparatives and functional analysis. Paper presented at NACCL15.
- 吉田清香·林智 2001 「同程度を表す2つの比較構文とその差異の考察」。『金沢大学中国語学中国文学教室紀要』 5、31-62頁。
- 袁毓林1993 『现代汉语祈使句研究』。北京:北京大学出版社。
- 张志公 1958 『汉语语法常识』。上海:上海新知识出版社。
- 朱德熙 1956 「现代汉语形容词研究」。『语言研究』 第1期。
- 朱德熙 1982 『语法讲义』。北京:商务印书馆。